

## 船橋市立医療センター 実施中の後ろ向き研究一覧

研究部門	研究課題名	対象となる患者さん	
		研究期間	承認日
循環器内科	総大腿動脈の治療の現状と臨床成績に関する後ろ向き研究(CAULIFLOWER研究)	2018年1月から2020年6月に当院で症候性下肢閉塞性動脈硬化症又は総大腿動脈の症候性動脈硬化性病変に対する治療を受けた患者さん	
副部長 岩田 曜	本邦における症候性総大腿動脈病変に対する侵襲的介入(カテーテルまたは外科手術)の現状の把握と、1年(短期)、3年(長期)における有効性・安全性を検討する。	倫理委員会承認後から	2020年8月24日
循環器内科	大腿膝窩動脈への血管内治療臨床成績に関する後ろ向き研究(eTECC 後ろ向きRegistry)	症候性下肢閉塞性動脈硬化症に罹患し、大腿膝窩動脈の動脈硬化性病変に対し、2017年1月以降に当院で血管内治療を受けた患者さん	
副部長 岩田 曜	大腿膝窩動脈領域の血管内治療に際し、昨今相次いで新規デバイス(薬剤コーティングバルーン、新規デザインのナイチノールステントやポリマー付きパクリタキセル溶出性ステント)が承認されている。本研究ではこれらのデバイスが使用可能となった以降に治療された症例を後ろ向きに検討し、本邦における治療現状の把握と5年までの慢性期における有効性・安全性を検討する。	倫理委員会承認後から	2021年6月25日
消化器内科	進行肝細胞癌治療において実臨床における全身化学療法の安全性と有効性を検証する多施設後ろ向き研究(変更申請)	2018年3月26日から2023年3月31日までに当院でアテゾリズマブとベバシズマブの併用療法、ソラフェニブ、レンバチニブ、レゴラフェニブ、ラムシルマブ、カボザンチニブのいずれかを導入された患者さん	
副部長 関 厚佳	アテゾリズマブとベバシズマブの併用療法、ソラフェニブ、レンバチニブ、レゴラフェニブ、ラムシルマブ、カボザンチニブを導入された進行肝細胞癌患者において全身化学療法導入期間中の臨床データをすべて集積し、分子標的薬の使い分けの実臨床における安全性と有効性を検証する。	倫理委員会承認後から	2021年8月31日
心臓血管外科	重症虚血性僧帽弁閉鎖不全症に対する乳頭筋に介入した僧帽弁形成術の有用性に関する多施設共同研究(通称:MITRA PLUS)	2015年1月から2019年12月までに当院で、重症虚血性僧帽弁閉鎖不全症で心臓手術を受けた患者さん	
部長 茂木 健司	重度虚血性僧帽弁閉鎖不全症に対する僧帽弁置換術と乳頭筋に介入した僧帽弁形成術の臨床成績を後方視的に比較検討する。	倫理委員会承認後から	2022年3月18日
循環器内科	総大腿動脈の動脈硬化性病変に対する編み込み型ナイチノールステントを用いた血管内治療の後ろ向き実態調査 BURDOCK-CFA Registry	2018年12月から2021年12月までに当院で、総大腿膝窩動脈に動脈硬化性病変を有する症候性閉塞性動脈硬化症患者に対し、編み込み型ナイチノールステントであるSUPERAステントを用いた血管内治療を受けた患者さん	
副部長 岩田 曜	総大腿膝窩動脈に動脈硬化性病変を有する症候性閉塞性動脈硬化症患者に対し、編み込み型ナイチノールステントであるSUPERAステントを用いた血管内治療の実臨床における6ヶ月の治療成績の実態を明らかにし、その関連因子を探索する。	倫理委員会承認後から	2022年5月25日
手術部	実臨床データを用いた肝門部領域胆管癌の術前ドレナージ法別の有効性と手術に及ぼす影響に関する検討	2018年1月から2020年12月までに術前ドレナージを行い、外科的根治手術を受けた患者さん	
部長 貝沼 修	肝門部胆管癌の手術症例に対して術前胆道ドレナージの方法別に合併症、予後を全国調査し、その有効性を検討する。	倫理委員会承認後から	2022年5月25日
消化器外科	脾温存尾側膵切除術後長期経過症例における胃静脈瘤発生リスク因子の検討。国内多施設共同研究	2011年1月から2018年12月までに脾温存尾側膵切除術を受けた患者さん	
部長 夏目 俊之	脾温存尾側膵切除術後長期経過症例における胃静脈瘤発生リスク因子との関連性について検討する。	倫理委員会承認後から	2022年6月24日
循環器内科	日本におけるたこつぼ症候群大規模多施設レジストリー -JapanTAK Registry-	2010年1月～2021年12月までに入院した、たこつぼ症候群の患者さん	
副部長 丘 慎清	日本におけるたこつぼ症候群の大規模レジストリーを構築し、詳細な検討を行う	倫理委員会承認後から	2022年7月27日

## 船橋市立医療センター 実施中の後ろ向き研究一覧

研究部門	研究課題名	対象となる患者さん	
研究責任者	研究の目的・方法	研究期間	承認日
小児科	本邦の小児におけるビベグロンの有害事象と使用実績調査	当院で2018年11月27日から2021年11月30日まで尿トラブルに対してビベグロンを投与された小児の患者さん	
副部長 木谷 豊	ビベグロンの使用実績を調査し、有害事象や夜尿症頻度に対する効能を明らかにすることを目的とする	倫理委員会承認後から	2022年9月27日
放射線技術科	抹消動脈疾患に対する血管内治療の医療被ばくに関する多施設共同後ろ向き観察研究	当院で2020年4月1日から2022年3月31日までに下肢抹消動脈疾患に対して血管内治療を受けた患者さん	
榎山 裕介	抹消動脈疾患に対する血管内治療の医療被ばくに関する全国調査を実施し、患者被ばく防護の最適化に寄与することを目的とする	倫理委員会承認後から	2022年9月27日
泌尿器科	泌尿器科治療に関する臨床研究	当院泌尿器科で2010年4月から2024年12月までに治療を受けた患者さん	
医長 武井 亮憲	病歴、臨床データ、手術関連のデータを後方視的に収集し、解析することで、最良の手術手技や術式、治療法を明らかにし、治療成績を向上させることを目的とする。	倫理委員会承認後から	2022年12月23日
呼吸器内科	間質性肺炎非小細胞癌に対するカルボプラチン+パクリタキセル/nab-パクリタキセル リチャレンジの有効性の検討	当院で2022年12月までに間質性肺炎非小細胞癌に対して治療を受けた患者さん	
部長 中村 祐之	間質性肺炎非小細胞癌に対する薬物療法は治療選択肢が非常に限られている。本研究ではカルボプラチン+パクリタキセル/nab-パクリタキセル療法のリチャレンジの有効性を解析することで、妥当性を検討することを目的とする。	倫理委員会承認後から	2023年2月27日
乳癌外科	BRCA1/2病的バリエーション陽性の予測スコアの検討	2019年5月1日から2023年1月31日に当院でBRCA1/2遺伝学的検査を施行した患者	
副部長 青柳 智義	遺伝学的検査の予測スコア(Myriad Mutation Prevalance tableおよびKOHBRA BRCA risk calculator)のデータベースを構築し、既存の予測スコアは現実の結果に即しているのか当施設からのエビデンス発信を可能にする	倫理委員会承認後から	2023年5月15日
放射線治療科	乳房放射線治療における自然呼吸下での乳房の動きの調査	2022年11月から2023年3月までに乳房に対する放射線治療を施行した50例	
部長 有賀 隆	乳房放射線治療にVWATを施行するにあたり、乳房が自由呼吸下でどの程度呼吸性移動があるかを調査する。	倫理委員会承認後から	2023年5月15日
薬剤局	シミュレーションソフト「Pycsim(ピクシム)」を用いた抗菌薬リネゾリドの初期投与設計の臨床応用に関する検討	2021/4-2023/3に整形外科でリネゾリド注初回投与の患者	
副主任薬剤師 並木 真貴子	整形外科感染症治療のためリネゾリド点滴治療を受けた患者のデータを活用し、「Pycsim」による初期投与設計が、有効性・安全性を確保でき、臨床に応用できるかを明らかにする。	倫理委員会承認後から	2023年5月15日
薬剤局	肥満患者へのバンコマイシン投与時の予測AUCの評価	2022年4月から1年間、VCMを投与した成人患者のうち、実測体重75kg以上の患者	
副主任薬剤師 並木 真貴子	予測したAUCと、血中濃度から求めたAUCとの比較を統計学的に評価する。	倫理委員会承認後から	2023年7月10日
腫瘍内科	進行再発胃癌に対するNivolumab+ケモの治療効果と安全性に関する検討	2021年12月から2023年12月までに腫瘍内科にて進行再発胃癌患者の1次化学療法として、Nivolumab+ケモが導入された症例	
副部長 高橋 秀和	進行再発胃癌に対する1次化学療法としてNivolumab+ケモを導入された症例の情報を集積し、その有効性と安全性を検証する。	倫理委員会承認後から	2023年8月7日
看護局	病棟看護師による経口摂取再開までの摂食機能訓練の有用性に関する検討	2018年4月1日から2022年3月31日までの当院脳神経外科病棟に入院した脳卒中患者	
副主任看護師 飯田 友則	経管栄養から経口摂取再開までの現状を把握し、摂食機能訓練の有効性を評価するとともに今後の課題を明らかにする。	倫理委員会承認後から	2023年9月7日
脳神経外科	再発・難治性慢性硬膜下血腫に対する中硬膜動脈塞栓術の有効性と安全性の検討	2018年1月1日～2022年12月31日の間に慢性硬膜下血腫に対する中硬膜動脈塞栓術を受けた、受診時18歳以上の患者	
副部長 新美 淳	中硬膜動脈塞栓術の治療実態や有効性、安全性を検証することで、再発・難治性慢性硬膜下血腫に対する治療の標準化を目指す。	倫理委員会承認後から	2023年11月6日